吉野川の河川環境整備に対する住民意識特性

徳島大学工学部　正員　定井　喜明
建設省徳島工事事務所　正員　○堀川　一雄
ＮＴＴ四国総支社　中富　恵光

1．はじめに　近年、全国的に都市化が進行するなかで、水辺の価値が見直され、うるおいとふれあいの空間として利用していこうという気運が高まってきており、流域住民は日常生活の環境空間（オープンスペース）として、河川に、自然、レクリエーション、スポーツ、景観などの機能と効用を求めるようになり、河川への住民ニーズはきわめて多様化してきたといえる。そこで本研究は、吉野川をケーススタディー対象河川として、流域住民が吉野川をどのように感じ、考え、利用し、かつ、どのように期待しているかを解明し、住民ニーズにもとづく吉野川の河川環境整備計画を、事業主体の立場から分析と考察を加え、その指針と適応策を導出せんとしたものである。

2．調査概要　徳島市全域で15歳以上の人を調査対象者として、アンケート方式による、流域住民の吉野川に対する意識調査を昭和63年8～9月に実施した。アンケート調査においては、407名を無作為抽出し、調査対象者に調査票の訪問配布・訪問回収を行った。有効回収数は357票（87.7%）であった。アンケート調査項目は、意識的項目・行動的項目・吉野川への評価項目・河川環境整備への要望項目・個人属性の項目など45項目に及んだ。

3．分析結果

①性別・年令別による特性　表－1、表－2は、性別および年令と他の要因とのクロス集計を行い、そのx^2検定により、その有意性の検定を行った結果である。表－1からわかるように、「男性」には「ほとんど毎日・週に1、2回程度・月に1、2回程度」とよく利用する人が多いようだが、「女性」になると、「年に1、2回程度」となっており、ほとんど行かない人が割合的に多くなっている。また、目的をみると、「男性」には「スポーツ」で利用する人が多く、「女性」には「動植物の観察や採集・写真撮影やスケッチ」を目的に利用する人が割合的に多いことがわかる。「男性」と「女性」には、きわめて大きな差があるので、「男性」、「女性」のどちらを主体とするかによって整備内容が大幅に違ってくるといえる。

また、表－2からは、「30歳未満」の人には「レクの場」を要望

表－1　「性別」による特性（x^2検定結果）

性別	有意に多いアイテム：カテゴリー		有意水準
	アイテム	カテゴリー	
男 49.9%	回数	ほとんど毎日・週に1，2回程度・月に1，2回程度	0.5%以上
	同行利用者	1人，スポーツ・趣味仲間	
	子供のころの利用	水泳	
	職業	会社員，その他	
	景色の美しい川である	どちらかといえばそう思う	2.5%
	目的	陸上・水上スポーツ	5.0%
	吉野川にまつわる文化・風俗	沈下橋	
女 50.1%	回数	年に1，2回程度	0.5%以上
	同行利用者	家族，地域の友人・その他	
	子供のころの利用	潮干狩り	
	職業	主婦・無職	
	景色の美しい川である	どちらともいえない	2.5%
	目的	動植物の観察や採集・写真撮影やスケッチ	5.0%

表－2　「年令」別の特性（x^2検定結果）

年令	有意に多いアイテム：カテゴリー		有意水準
	アイテム	カテゴリー	
30歳未満 33.6%	郷土の誇り	「鳴門大橋」と「阿波踊り」を中心とする観光地	0.5%以上
	同行利用者	地域の友人・その他，スポーツ・趣味仲間	
	要望整備	レクリエーションの場	
	優先整備・保全	スポーツ施設・コミュニティ広場	
	要望施設	各種スポーツ施設	
	子供のころの利用	花火上げ・たて上げ・野球・運動会	
	職業	学生	
	居住年数	昭和56年以降から	
	水のきれいな川である	どちらともいえない，どちらかといえば思わない・思わない	
	堤防や護岸の美しい川である	思わない・どちらかといえば思わない	
30歳代 18.8%	同行利用者	家族	0.5%以上
	要望施設	親水広場	
	職業	主婦・無職	
	居住年数	昭和46～55年から，昭和56年以降から	
	水のきれいな川である	どちらかといえば思わない 思わない	
	堤防や護岸の美しい川である	どちらともいえない，どちらかといえば思わない・思わない	
40歳代 19.6%	同行利用者	家族	0.5%以上
	要望整備	自然と親しみ、情操をはぐくむ場	
	子供のころの利用	潮干狩り	
	職業	その他	
	居住年数	昭和46～55年から	
	堤防や護岸の美しい川である	どちらかといえば思う	
50歳以上 28.0%	郷土の誇り	清冽な自然景観をもつ「吉野川」	0.5%以上
	同行利用者	1人	
	要望整備	あまり手を加えない自然に近い状態	
	優先整備・保全	豊かな情緒を育む空間・河川景観の保全	
	要望施設	自然観地・自然観察広場	
	子供のころの利用	水泳	
	職業	主婦・無職，その他	
	居住年数	昭和30年以前から	
	水のきれいな川である	思う	
	堤防や護岸の美しい川である	思う	

する人が多くなっており、「40歳代」の人には「豊かな情操をはぐくむ場」を、そして、「50歳以上」の人には「自然に近い状態」を要望する人が割合的に多いといえることがわかる。年令の違いによっても、意識・行動に大きな差が見られ、常に利用対象の年令も考慮して適地に適切に対応する必要があると思われる。

②河川環境整備への要望内容別特性　吉野川の河川環境整備内容の違いによって、流域住民にどのような意識・行動特性、および属性的特性があるのかを、数量化理論Ⅱ類、およびクロス集計により分析を行い、その結果をまとめたものが表－3である。この表からわかるように、「自然と親しみ情操をはぐくむ場」を要望するか否かを規定する主要な要因は、「吉野川に対する考え方」、「職業」、「優先整備・保全」の三つであることがわかった。また、「レクの場」を要望するか否かに影響している主要な要因は、「優先整備・保全」であることがわかった。そして各要因のカテゴリースコアからは、「自然と親しみ情操をはぐくむ場」を要望する人には、「豊かな情操を育む空間・河川景観の確保」を、「レクの場」を要望する人には、「スポーツ施設・コミュニティ広場」を優先的に整備・保全するべきであると考えている人が有意に多いといえる。

③吉野川の地区別利用特性　流域住民は、レク的な利用をはじめ、いろいろな目的のために吉野川へ行っているようである。それでは、利用する場所の違いによって、流域住民にどのような特性があるのかを、数量化理論Ⅱ類、およびクロス集計により分析を行った。その結果を表－4に示す。この表から、「河口～吉野川大橋間」をよく利用する人には、吉野川を「心のやすらぎが得られる場」だと考え、「豊かな情操を育む空間や河川景観の確保」を優先的に整備・保全するべきであると考えている人が割合的に多くなっている。また、「吉野川大橋～吉野川橋間」をよく利用する人には、吉野川を「レクの場・スポーツの場」だと考え、「スポーツ施設やコミュニティ広場」を優先的に整備・保全するべきであると考える人が割合的に多くなっていることがわかる。そして、同行利用者をみてみると、「河口～吉野川大橋間」を利用する人には、「地域の友人・その他」と行くという人が、また、「吉野川大橋～吉野川橋間」を利用する人には、「スポーツ・趣味仲間」と行くという人が割合的に多くなっている。

4．おわりに　以上の分析結果、表－3、表－4からして、総合的に判断すると、吉野川の利用場所別の河川環境整備方向は、表－5のように導出され、一応の吉野川の河川環境整備計画を示唆することができたと考えられる。

【参考文献】　1）財団法人リバーフロント整備センター：豊かに育てたい水辺空間，1988。　2）定井喜明：吉野川の河川事業推進方策，徳島大学工学部土木計画学教室，1980。　3）財団法人河川環境管理財団：解説 河川環境，山海堂，1983

表－3　「要望整備内容」の主要規定要因特性

要望整備内容の区分	割合的に多い傾向があるか、"有意に多いといえる"カテゴリー		主要規定要因
	アイテム	カテゴリー	
自然と親しみ情操をはぐくむ場 32.8%	①吉野川に対する考え方	心のやすらぎが得られる場	①②④
	②職　業	その他	
	③居住年数	昭和５６年以降から	
	④優先整備・保全	"豊かな情操を育む空間・河川景観の確保"	
	⑤子供のころの利用・遊び	潮干狩り	
	⑥年　令	４０歳代	
	⑦利用場所	第十堰から上流	
レクの場 23.5%	①優先整備・保全	"スポーツ施設・コミュニティ広場"	①
多目的に使える空間 20.7%	①要望施設	"各種スポーツ施設"	①②
	②優先整備・保全	自由広場・親水広場	
あまり手を加えない自然に近い状態 23.0%	①優先整備・保全	"豊かな情操を育む空間・河川景観の確保"	①②
		"文化，教化空間・生態系保持空間 その他"	
	②同行利用者	"１人"	

表－4　「吉野川の利用場所」の主要規定要因特性

利用場所の区分	割合的に多い傾向があるか、"有意に多いといえる"カテゴリー		主要規定要因
	アイテム	カテゴリー	
吉野川橋～第十堰 24.0%	①目　的	その他・レク的な利用目的では行かない	①②
	②居住年数	昭和５６年以降から	
	③同行利用者	１人	
	④居住距離	１０００ｍ未満	
吉野川大橋～吉野川橋 33.3%	①優先整備・保全	"スポーツ施設・コミュニティ広場"	①②
	②吉野川に対する考え方	レクの場・スポーツの場	
	③要望施設	"親水広場"	
	④同行利用者	スポーツ・趣味仲間	
	⑤目　的	陸上・水上スポーツ	
河口～吉野川大橋 28.1%	①優先整備・保全	豊かな情操を育む空間・河川景観の確保	①②③④⑤
	②職　業	"学生"	
	③同行利用者	"地域の友人・その他"	
	④吉野川に対する考え方	"心のやすらぎが得られる場"	
	⑤子供のころの利用・遊び	潮干狩り	

表－5　利用場所別の河川環境整備方向

吉野川の地区区分	施設整備内容	景観・デザイン方向	主要な利用者
河口～吉野川大橋	散策・ジョギング・サイクリング施設 親水広場 ピクニック施設	心のやすらぎが得られる場	学生 スポーツ仲間 趣味仲間　一
吉野川大橋～吉野川橋	各種スポーツ施設 コミュニティ広場	活気・活動的な場	スポーツ仲間 趣味仲間
吉野川橋～第十堰	将来の需要を考え、適時シク施設を整備 親水広場 ピクニック施設	人工自然河川の場	家族 １人
第十堰より上流	自然観察施設	天然河川の場 雄大な景観の場	１人 家族